

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般 - 100

学校名・団体名	高松市立木太中学校
HPアドレス	http://www.edu-tens.net/tyuHP/kitatyuHP
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	「できた」「わかった」が実感できる木太中の学び合い活動
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>生徒自身が自分の考えを持ち、互いの考えを伝え合い、発展させるような活動やそれに対する学習支援がある「木太中の学び合い活動」を導入する。そうすることで、「分からないことが分かった」、「できなかったことができるようになった」という体験をもとにした「もっと知りたい、学習したい」という学習意欲の高まりを期待している。</p> <p>さらに、教員の指導・支援が生徒の「できた」、「分かった」につながることで教員が「もっと工夫しよう」、「もっと頑張ろう」という意欲を持ち、指導の工夫を行うようになることを期待している。</p>	

1. 本年度の活動内容

(1) 現職教育

毎月1回の現職教育の研修会において、他校の研究実践、先進校視察の内容、県教育センターの研修資料等から「木太中の学び合い活動」についての研究を深め、指導方法の共有化を図った。

(2) 校内研修会

4月19日(火)指導者に稲葉義治氏を招いて、年度当初の授業研究と指導を受けた。今年度から新学習指導要領の視点も踏まえた「木太中の学び合い活動」を取り入れた授業づくりを行うため、稲葉氏から「共同的な学び」についての基本的な考え方や研究実践の進め方について指導していただいた。また、8月24日(水)には、実際の研究実践の取組の具現化を図るために、池添圭子氏(協和中学校現職教育主任)を講師に招き、協和中学校での協同学習の取組について説明を受けた。実践の具体的な姿が明らかになり、これから実践に取り組む本校教員には有意義な研修となった。

(3) 公開授業研究会

10月20日(木)、2月2日(木)の2回、指導者に稲葉義治氏を招いて公開授業研究会を実施した。午前中3校時を自由に参観できる公開授業とし、本校の教員、本校以外の教員に公開した。午後から研究授業、研究討議、指導を行った。1回目の研究会には校区の小学校教員を含む42名が来校し、研究討議に参加した。研究討議では、教員も学び合い活動のスタイルでそれぞれ小グループのテーマを決め、討議を行った。2回目の研究会には、県外の教員も来校し1回目から継続して参加した小学校教員もおり、研究の広がりも現れはじめている。

(4) 「学び合いの授業研究週間」での教員相互による授業参観

(2)、(3)の校内研修会の研究授業以外に年間2回の「学び合いの授業研究週間」を設け、校内教員が参観し、相互による授業討議、評価を行った。授業参観には統一した項目の授業観察シートを活用し、視点を明確にした討議、評価が行えた。

(5) 授業評価

学期ごとに、生徒からの授業評価を行った。その結果を分析し、課題を見つけ出し、その解消について検討した。また、県学習状況調査の質問紙調査の結果も分析を行い、生徒による授業評価と合わせ、授業評価を行った。その結果の分析については、後述の成果と課題で述べる。

(6) 先進校視察

県内の2校の視察を行ったほか、ちゅうでん教育振興助成を活用し、県外優良校視察も行った。

- ・ 11月15日(火) 静岡県富士市立田子浦中学校2名(英語他)
- ・ 11月21日(月) 静岡県富士市立元吉原中学校3名(英語他)・・・ちゅうでん教育振興助成利用
- ・ 2月24日(金) 静岡県富士市立田子浦中学校2名(数学他)

視察した教員からは「授業の中で、(参加できず)我慢している生徒がいなかった」、「どの生徒も自ら聴こう、考えようとしており、どんな課題でも最後まで周りと協力して取り組もうとしていた」、「生徒だけでなく、教員も成長すると感じた。生徒のつながりを意識することで、教員もつながり、成果が出てくると思った」などの意見が帰校後の報告会で出された。報告会では、全教員で視察内容の共有を行った。

2. 成果と課題

(1) 成果

今年度の国、県の学習状況調査の結果では、基礎的・基本的な内容の定着について、各教科とも良好な結果が得られている。質問紙調査では次のような成果が見られた。「普段の授業では、学級の友だちとの間で話し合う活動をよく行っていると思いますか」の問いに「思う」と答えた生徒は62.8%(昨年20.6%)「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていますか」の問いは「できている」と答えた生徒は34.4%(昨年21.2%)、「分からないところは先生や友だちに質問して解決していますか」の問いに「している」と答えた生徒は40.1%(昨年31.9%)と増加傾向にある。

また、授業アンケートでは、83%の生徒が「意欲的に学習に取り組んでいる」、96%の生徒が「授業内容が分かりやすい」と回答している。全教科で、「木太中の学び合い活動」の視点で授業に取り組んだ成果と考えられる。

(2) 課題

学習意欲の向上や学習に対する前向きな姿勢など好ましい状況が生まれてきている。しかし、学び合い活動がマンネリ化したり、生徒一人ひとりの良さを引き出せず学習が収束してしまったりするなどの課題も明らかになった。教員の授業へ取り組む姿勢も向上しているので、学び合い活動の工夫を行い、互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させることができる学習を進める必要がある。そのために、教員同士の授業の相互参観や授業検討会など教員同士の学び合いを継続させていきたいと考えている。